

全学連ドイツ訪問速報 No.1

全学連国際部 松室しをり (intl-solidarity@hotmail.co.jp 050-3036-6464)

ドイツで反原発学生集会が大成功！ 「原発問題を階級的視点から捉えるなんて ドイツにとってはとても斬新だ！」

<8月9日>

☆ドイツの仲間と合流！

朝7時、空港前でドイツの仲間の出迎えを受けました。彼らの住む「団結の家」に入ったとたん、そこには子どもを含め10人ぐらいの楽隊（鼓笛隊）がいて、歓迎の挨拶を受けました。その後、ハイデルベルクの街の歴史や観光スポットなどを教えてもらいました。



ドイツの仲間がヴァインハイムで共同生活をしている「団結の家」



9日、ドイツの仲間と合流！ ハイデルベルクの街を案内していただきました。

<8月10日>

☆ドイツの原発見学へ

まず「団結の家」があるヴァインハイム近郊の農業地帯にあるオーブリヒハイム原発の見学に行きました。ドイツでもかなり古くからある原発のひとつで、40年ほど稼動したのち2006年に廃炉になったところです。

ネッカー川のほとりに位置する本当にきれいなところでした。日本では海水を冷却水として使いますが、ドイツのような内陸国では

全学連第72回定期全国大会

- ◇全原発の停止・廃炉！
- ◇「教育の民営化」と対決し、
学生自治会を甦らせよう！

【日時】

9月9日(金)～10日(土)

9日 午前9時半 開会

【会場】

9月9日 文京区民センター

(東京都文京区本郷4-15-14)

9月10日 浜町区民館

(東京都中央区日本橋浜町3-7-1)

10日、ドイツの仲間と廃炉になった原発を見学。



大きな川の水が頼りです。原発から排出される水は川の水温を10℃も上げるそうです。

2006年以来、ここでは可能な部分の解体や管理作業が進められています。200人の労働者がいるとのことでした。エンジニアをはじめ3人の職員の人たちが懇切丁寧に説明してくれたのですが、「政治的な理由のためだけに（廃炉になった）」、「日本でも3・11の後、理性的な人たち(!)は原発から撤退すべきではないといっています」といった言葉は耳に残りました。「ドイツの原発は日本のものとは違ううえ、ここで

は津波や地震の心配もないので絶対安全です」というお決まりのフレーズもやはり出てきました。

概して、3・11後もさほど彼らの言うことは変わっていないのだろうなという印象を受けました。とはいえ、訪問者用の建物の入り口には、東日本大震災とフクシマの事故についてまとめられたパンフレットも置かれていました。ちなみに、原発の敷地から目と鼻の先に、バイオマス発電のプラントがありました。電力会社にとってはやはり、原発の廃炉もビジネスチャンスのようなのです。

☆反原発学生集会が大成功！

10日夜の学生集会はマンハイムで行いました。ちなみに、昨年の8/6ヒロシマ集会にきてくれたローラはマンハイム大学に通っています。集会は20人以上が集まり、かなりにぎやかに行われました。

まず初めに持参したDVDを上映し、私が全学連の代表としてプレゼンテーションをし、最後に討論の時間をとりました。

質問・意見も非常に重要なものが多く、「ドイツでは反原発の闘いを資本主義に対する闘いとしてみることはあまりないので、日本の闘いはとても興味深い」等々、原発と核、そして資本主義との関係が討論の軸となりました。

それから重要だったのは、これまで何度もメールでコンタクトし、全学連の闘いに思いを寄せてくれていたInternational Student Movementの学生がわざわざマールブルクから参加しに来てくれたことです。「私たちにできることは限られているけれど、3・11をへて日本が焦点になった以上、恒常的な情報交換をはじめ、国際的なネットワークを今後は一緒につくっていきたい」と伝えました。さらに彼によれば、11・6の前後はロンドンやドイツで教育の民営化反対、反失業の大デモがよびかけられているそうです！ 共同闘争を成功させよう、ととても盛り上がりました。

終了後も討論は続きます。私はフランクフルト大学の学生と話せたのですが、2009年の教育ストライキでフランクフルト大学は、かなり戦闘的な闘いがうちぬかれた大学です。彼はその時に大学占拠闘争を行ったうちのひとりだそうです！ 法大のこともローラを通して知っていました！

集会の全体を通して、ローラたちがこれまで必死で運動をつくってきたことが垣間見え、ほんとうに感動しました！



10日夜の学生集会の様子。松室さん（写真右）と、集会を主催し通訳も担ってくれたローラさん（写真左）。